

## 花の育て方・選び方

花をキレイに育てる方法を知りたい・土が悪くて困っている  
花の選び方が難しい・毎回同じ花になってしまう？



### ①キレイに育てる・見せる工夫

- ・自然の花を見せるのが良い。
- ・花で季節を感じてもらうことが必要。
- ・花がら摘みをこまめに行う。
- ・花期の長いものを選ぶ。
- ・冬に春用の苗、春に夏 - 秋用の苗を植える。

### ②水やりの工夫

- ・水やりが大変な場合は、花木を植える。
- ・日陰にアジサイ等、手間の掛からない花を植える。
- ・水が少なくても丈夫な植物を植える。

### ③土づくりの工夫

- ・有機肥料（ダンボールコンポスト）を作って利用する。



### ④他の事例を参考にしてみよう・プロに聞いてみよう

- ・色々なタイプの花壇をめぐるウォーキング（花壇めぐり）をして参考にする。
- ・桜の木の下は菜の花にすると相性が良い等、組み合わせを工夫する。
- ・実のなる植物を育てる。
- ・植え替えの手間がかからない、宿根草に移行してみる。

## 発生材の処理・里山や公園の管理

発生材の活用方法を工夫したい・活動や管理の工夫



### ①発生材を工作物に活用する工夫

- ・土留め、階段、柵、ベンチに使う。
- ・竹は柵に利用する。
- ・切った材はチップにして播く。



### ②炭焼きにする工夫

- ・団体間で連携して炭作りができるようにする。
- ・発生材を決まったサイズにして運び、炭焼きの釜を貸すしくみをつくる。

### ③できるだけ小さくする工夫

- ・枝は手で小さくしてから、踏むとより小さくなる。



### ④貴重な植物があるときは手刈りにしよう

- ・貴重な植物の周辺は手で刈るようにする。

### ⑤活動や管理の工夫

- ・管理計画を立てて、ふりかえる。
- ・団体間で連携した生き物調査を行い情報共有する。
- ・林の中の自然に触れあう作業場が良い。
- ・竹は管理が大変なので、常緑樹や落葉樹に代える。



## 安全管理・盗難防止・まちの安全・マナー

作業時の安全管理・注意事項が大変  
花や苗・竹の子等を盗まれる・ゴミを捨てられる



### ①保険に加入し、危険な作業は役割分担をする

- ・子どもの参加は保険の加入、作業の分配等に対応する。
- ・子どもに体験させるイベントはケガの無いように十分に気をつける。
- ・注意事項を話し保護者の理解を得ておく。

### ②必要に応じた対応と声かけで安全に作業する

- ・安全体操、声かけをして安全管理を行う。
- ・広報に注意事項を書く。
- ・作業に応じてヘルメットを着用する。

### ③看板を設置すると盗まれにくくなる

- ・会の名前と活動紹介を掲示すると盗まれにくい。
- ・「小学校の教材にします」「子どものための竹林」と書いておくと盗人が少ない。
- ・小さい苗はなるべく柵の中で育てる。
- ・盗られても一喜一憂しない。

### ④花があるとゴミが捨てられにくくなる

- ・プランターを置いてゴミ置き場になりにくくする。
- ・花があるとゴミを捨てられない。
- ・パトロールをしているとゴミが減る。



### ⑤緑や花があることで防犯になる

- ・緑や花があれば防犯、防火にもなり通学や通勤等にも安心、安全な町になる。
- ・安心、安全なまちづくりには景観をよくすることが大事。

## みどりの講座

(公財) 川崎市公園緑地協会では、花と緑のまちづくりを推進するボランティア活動をする人を対象に様々な講座を開催しています

### ①緑化推進リーダー育成講座（花と緑のまちづくり講座）

- ・花と緑のまちづくりを推進したいと考えている人を対象に、地域の緑化活動の核となるリーダーとしての知識を習得する講座です。
- ・毎年、8月から1月にかけて年6回開催します。

### ②里山ボランティア育成講座

- ・里山の自然環境や管理手法を学習し、実技研修を行うことにより、里山活動の活性化と実際に活動を始めるボランティアを育成します。
- ・1年に6回程度開催します。

### ③花壇ボランティア実践講座

- ・「花と緑のまちづくり講座」の卒業生を対象に花壇ボランティアのノウハウやスキルアップを目的とした講座です。

上記講座の詳細は（公財）川崎市公園緑地協会のホームページをご覧ください。  
<http://www.kawasaki-green.or.jp/front/bin/home.phtml>



# 緑の活動団体交流サロン ヒント集 緑の活動編

これまで（公財）川崎市公園緑地協会には、活動団体の皆さんから、活動に関する相談や技術的な支援等への要望が寄せられており、その内容は多岐に渡っておりました。

（公財）川崎市公園緑地協会では、平成23年度から緑の交流サロンを開催し、日頃の市民活動の中で、皆さんが工夫していることや困っていることについて意見交換を行いました。皆さんのご意見から課題を解決するためのポイントをこのヒント集にまとめました。

また、緑の市民活動の中から各団体に共通した内容として、広報についてのポイントを詳しくまとめました。

日頃の活動の参考に、是非お役立っていただければと思います！



(公財) 川崎市公園緑地協会



## 人手不足

人手が足りない・新規会員が増えない



### ①地域とのつながりを大切にしよう

- ・活動を通じて地域の人と交流することが大切。
- ・活動を近隣の方々の交流の場にする。

### ②活動する時は周りのみんなに知らせよう

- ・自分たちが活動する時に必ず町内に連絡する。
- ・行政の広報で、活動やイベントを周知する。
- ・季節の変わり目に草や花を植える時、集合を呼びかけ参加してもらう。

### ③活動をPRしよう

- ・活動PRイベント、チラシ、市の広報でお知らせする。
- ・活動をする時には腕章等目印をつける。
- ・コンクールに出して活動をアピールする。
- ・活動中に話しかけてくれた人には、次の活動などに声をかける。

### ④イベントをきっかけにしてみよう

- ・地元の団体等と連携してイベントを行う。
- ・イベントに家族で参加してもらい、その時に草取りもする。
- ・花植え作業をイベント化する。



### ⑤参加形態を多様にして活動できる人を増やす

- ・作業日、作業時間を拘束せず、時間を短く集中して作業する。
- ・出来ることを出来る範囲で、無理をせず楽しみながら活動する。
- ・なぜこの活動をするのか振り返る。
- ・活動が自分のものであるという気持ちでいることが大事。

## 世代交代

若い世代の担い手が不足し、高齢化している



### ①親子をターゲットにする

- ・若い世代を取り込むには、子ども向けだけにせず、大人向けのメニューにする。
- ・子どもは飽きっぽいの、大人も楽しめるものがあると親が夢中になる。

### ②親子向けのイベントを開催する

- ・花壇活動に親子で参加してもらう。
- ・先ず先生や親に教えると、子どもにいろいろな体験をさせられる。

### ③子ども達に大人になって戻ってきてもらう工夫をする

- ・活動後に参加した子ども達にその後どうなったか、ハガキを出す。
- ・子どもの頃植えた木の生長した姿を見せる。

### ④学校等と連携した活動や取り組みを行う

- ・幼稚園や小学校が利用することを考えた管理を行う。
- ・日常の維持管理活動の中で学校と連携する。



## 運営の工夫・担い手の育成

今後の会の運営についての不安

### ①人材育成で担い手を育てよう

- ・若い人に教えながら作業する。
- ・指導に熱が入ると敬遠されるので、楽しく活動することを考慮する。



### ②団体間で連携しよう

- ・団体間の横の繋がりとして連絡会をつくり、イベントも一緒に行う。
- ・会の運営には適材適所の人材を当てはめることがイベントの成功に繋がる。

### ③持続するための工夫

- ・公園等を見学する。
- ・花と緑、水に関連した市民活動グループのネットワークをつくる。

### ④近隣へ配慮して活動を行う

- ・年1回竹炭作りを行う時には、事前に近隣にお知らせする。



→皆さんのご意見から課題の解決のヒントとして「広報」があげられました。「広報」を通して活動のポイントを整理しました。



## ポイント① 市民活動にとっての広報の目的を知ろう

広報は知らせて終わりではなく、大事なことは何かを引き出すことが必要！

市民活動にとっての広報はコミュニケーションであり、そのきっかけとなるものです。

- ・活動内容をまわりの人に理解してもらうこと
- ・活動のための資源（人、もの、金）を集めること
- ・活動を支えてくれる人に情報を提供すること（とても大事）



### 市民活動にとっての 広報のツボ

チラシ等の広報手段を、ラブレターとして考えてみよう♡

- ・想いが届くようにできるだけわかりやすく、丁寧に伝えよう！
- ・この内容で自分たちのことがわかってもらえるか、好きになってくれるか考えてみよう！
- ・その後も引き続き仲良くなれるかな？

## ポイント② 実は大事な、広報前の確認作業

広報手段を考える前には、ぜひ確認してから作成してみましょう！

- ・団体のミッション（何のために自分たちは活動しているか、活動の目的は何か、を団体内で確認し合ってみよう）
- ・この広報の目的（広報する目的は何か）
- ・団体の置かれている位置（誰に信頼されているのか、どういう人への発信が必要なのか）
- ・社会ニーズの把握（地域は何を求めているのかを知り、団体の目的との調和を図る）



## ポイント③ 誰に・どこで・何を伝えるか？

「誰に・どこで・何を伝えるか」がはっきりしていないと、あやふやなものになってしまいます。

### ・誰に

ターゲットを誰にするか、誰に向けて発信しているのかがはっきりしていると、チラシを手にとってもらいやすいものです。ターゲットとしては、小中学生、大学生、若者、親子、主婦、男性、シニア世代等様々な人がいます。

### ・どこで

配布場所によってチラシのレイアウトが変わります。ラックに置く場合は、チラシ表紙上部に大見出しや、伝えたい内容をレイアウトする必要があります。掲示板に貼るならポスター形式のほうが良いでしょう。また、広報の媒体が何か（ホームページ、メール、会報、ポスター、チラシ、新聞等）によって作り方が変わります。

### ・何を伝えるか

伝えたいメッセージは何でしょうか。わかりやすく、共感を生むのが良いです。イベント情報、自分たちの団体の思いや意見、主張等様々な内容の要点をおさえて記載することです。

## 「市民活動と広報」について

現在、把握されているNPOの数は約5万団体、市民活動団体はその10倍あると言われ、現在ではボランティア活動は一般的になってきました。一方で情報量や情報伝達ツールがとて増え、インターネット等を利用して誰もが情報を発信できるようになったため、積極的に情報発信をしないと多くの人に届かないという状況にあります。

市民団体の活動目的は多種多様ですが、現状に課題があり、その解決に向けて活動していると言えます。「活動を理解してもらう、賛同者・参加者を増やす、お金を集める」これらがあって活動は維持・継続・発信していけるものです。

市民活動は対価を得ることが目的ではありません。しかし活動の継続にはボランティアや資金や情報等が必要です。そのためにも、活動を支えてくれる様々な立場の人に、効果的な方法で情報を発信することが重要であり、それが市民活動における広報です。

